

社会資本総合整備計画 中間評価書

令和05年08月08日

計画の名称	2 市民が効果を実感できる安全で快適なみちづくり(期)(防災・安全)												
計画の期間	平成31年度 ~ 令和05年度 (5年間)										重点配分対象の該当		
交付対象	京都市												
計画の目標	道路改良等による交通安全・防災対策を行うことで、道路の安全性及び快適性の向上を図り、安心・安全なみちづくりを目指す。												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	2,367	A	2,367	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H31当初)	中間目標値 (H33末)	最終目標値 (H35末)
1	道路拡幅・バイパス整備 緊急輸送道路・避難路等における安全な通行空間整備率の向上 緊急輸送道路・避難路等における安全な通行空間整備率 (通行空間整備率) = (整備済延長) ÷ (事業延長)	45%	54%	57%
2	自転車走行環境整備 自転車走行空間の整備による京都市内の自転車関係事故件数の減少 京都府警データの京都市内における自転車が関係する事故件数により算出(H31補正より他の整備計画から移行。当初現況値H30末)	954件	910件	880件
3	自転車走行環境整備 歩行者と自転車の共存に関する満足度 京都市が実施している市民生活実感調査結果により算出(H31補正より他の整備計画から移行。当初現況値H30末) (自転車と歩行者の共存ができていないと感じている人の割合) = (どちらかというと思わない人の割合) + (そう思わない人の割合)	34%	32%	31%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	○	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
・京都市国土強靱化地域計画に基づき実施される要素事業：A1-1,A1-4,A1-5・流域水循環計画(京都市水共生プラン)に基づき実施される要素事業：A1-3														

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況		
												H31	R02	R03	R04	R05					
一体的に実施することにより期待される効果																					
備考																					
道路事業	A01-001	道路	一般	京都市	直接	京都市	都道府 県道	交安	(主)京都広河原美山線 ・鞍馬北工区	現道拡幅 L=1.8km	京都市						582		-		
	A01-002	道路	一般	京都市	直接	京都市	国道	交安	(国)162号・栗尾パイパ ス 工区	バイパス L=3.2km	京都市							6		-	
	A01-003	街路	一般	京都市	直接	京都市	S街路	改築	大和大路本町通	街路整備 L=0.1km	京都市							164		-	
	A01-004	道路	一般	京都市	直接	京都市	都道府 県道	交安	(主)京都京北線(弁ヶ 淵)	視距改良・現道拡幅 L=0.3k m	京都市							389		-	
	A01-005	道路	一般	京都市	直接	京都市	国道	改築	(国)162号・川東工区	バイパス整備 L=2.15km	京都市							1,166	1.2	-	
	A01-006	道路	一般	京都市	直接	京都市	市町村 道	交安	天神道他	自転車走行環境整備 20km	京都市							60		-	
												小計							2,367		

中間評価

中間評価の実施体制、実施時期	
中間評価の実施体制 京都市で評価を実施	中間評価の実施時期 令和3年度末（令和4年度への繰り越し事業含む）
	公表の方法 京都市ホームページにより公表
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・道路拡幅や視距改良を行い、緊急輸送道路や避難路の安全性を向上させた。 ・自転車走行環境整備の推進により、自転車関連の交通事故の減少につながった。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
特記事項（今後の方針等）	
<ul style="list-style-type: none"> ・通行空間整備について、限られた予算を効率的・効果的に活用し、継続して事業を進める。 ・引き続き、限られた予算を効率的・効果的に活用し、自転車走行環境の整備を進めるとともに、自転車のルール・マナーの啓発を行っていく。 	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	中間 目標値	54%	緊急輸送道路・避難路等における安全な通行空間整備率 計画的に事業を実施し、目標を達成した。
	中間 実績値	54%	
2	中間 目標値	910件	自転車が関係する事故件数の減少 事故が多く発生している都心部を中心に自転車走行環境の整備を進めることにより、自転車関係の事故件数が大幅に減少することにつながった。
	中間 実績値	612件	
3	中間 目標値	32%	歩行者と自転車の共存に関する満足度 新型コロナウイルスの影響により、自転車通勤・通学が推進され、新たに自転車を利用する人が増加したことに伴い、マナーを守っていないと感じる人の割合が高くなった。
	中間 実績値	50%	